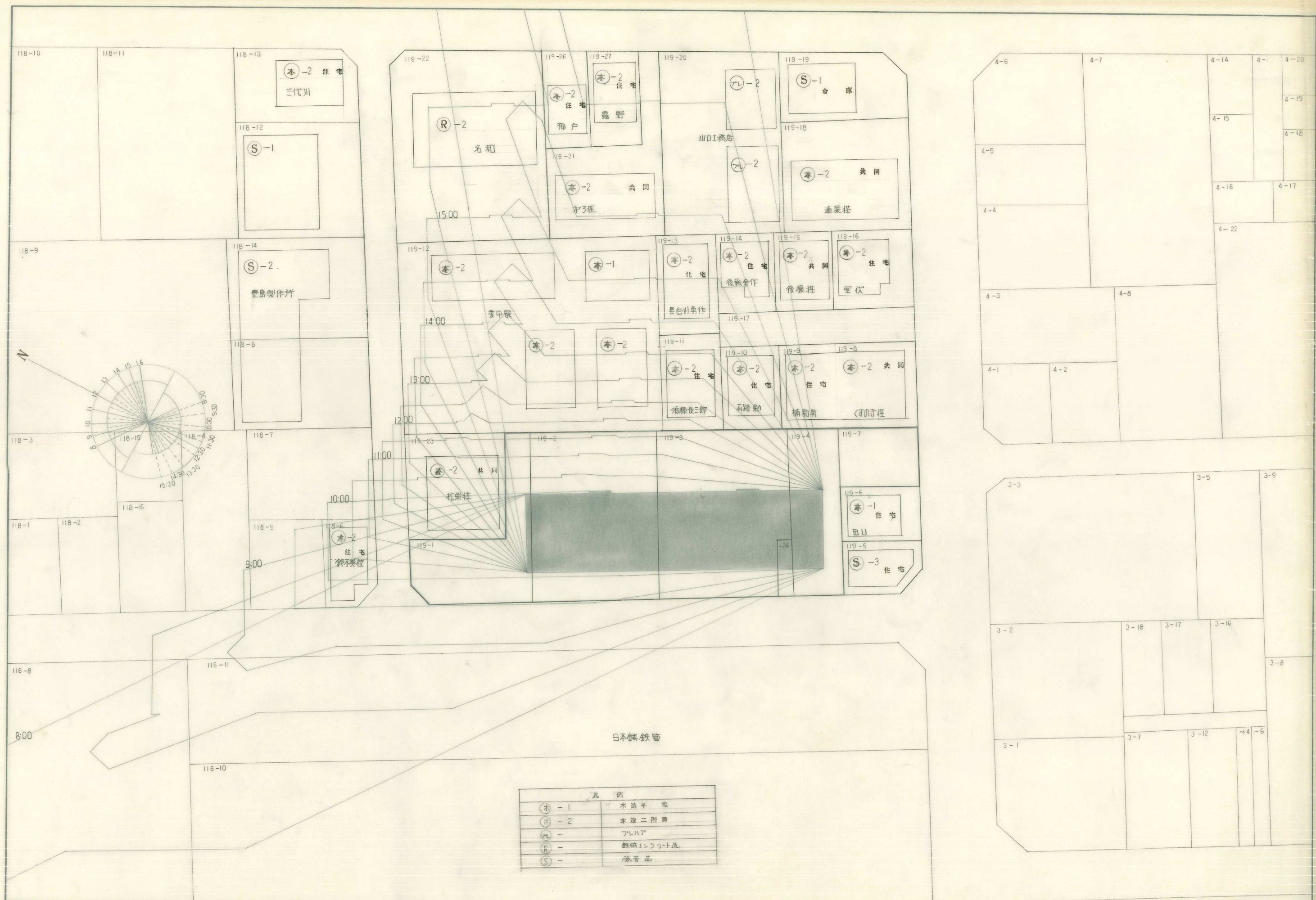


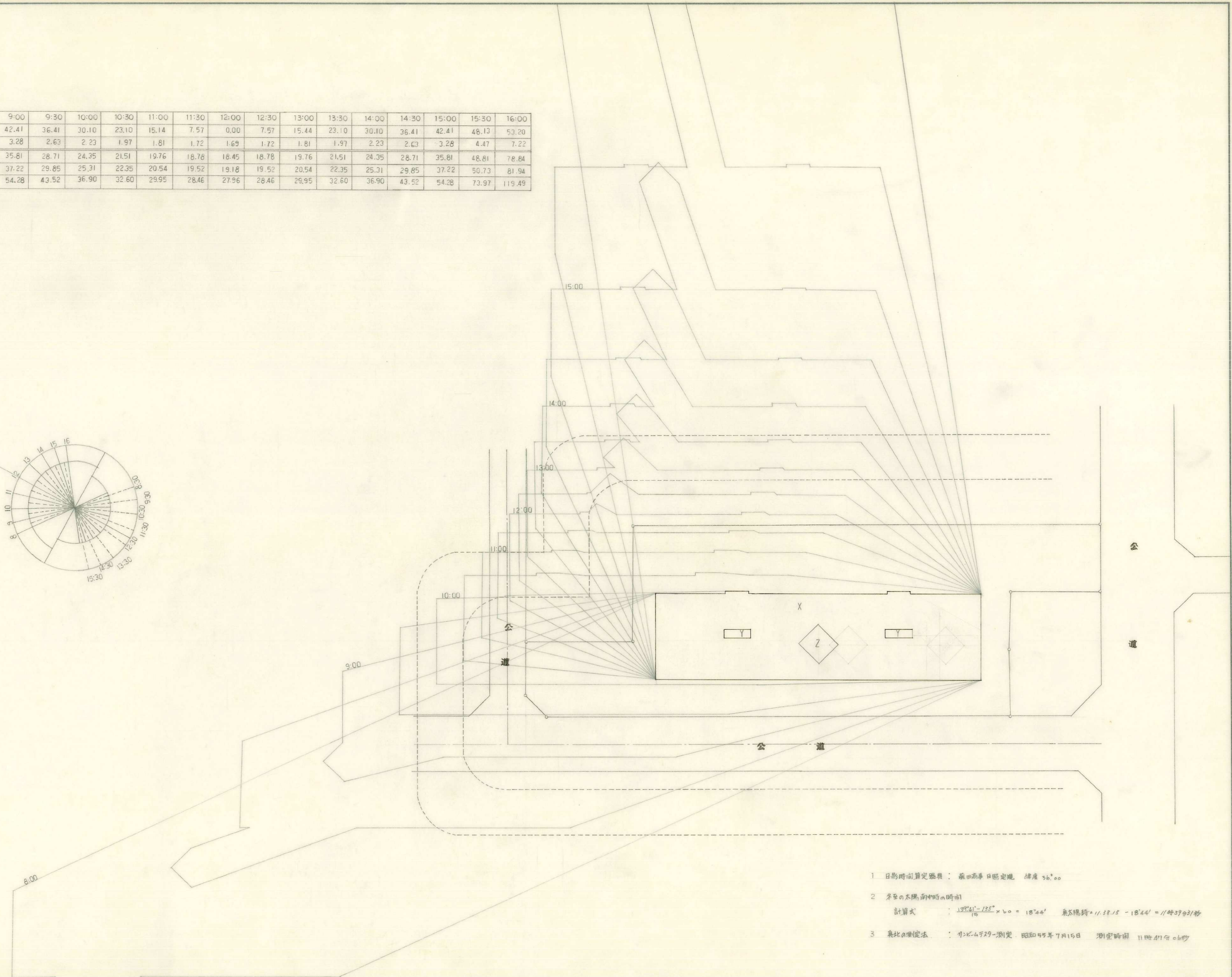
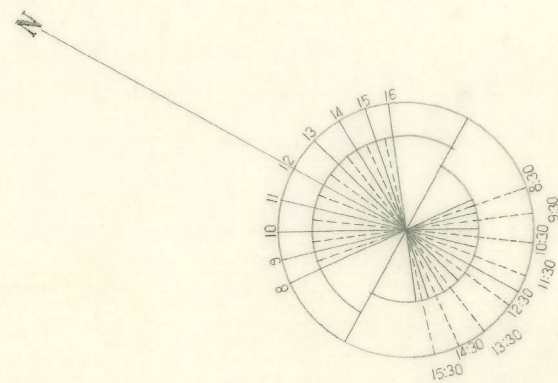


凡 例

(木) - 1	木造平 家
(木) - 2	木造二階 家
(ア) -	アスファルト
(R) -	鉄筋コンクリート造
(S) -	鉄骨 造

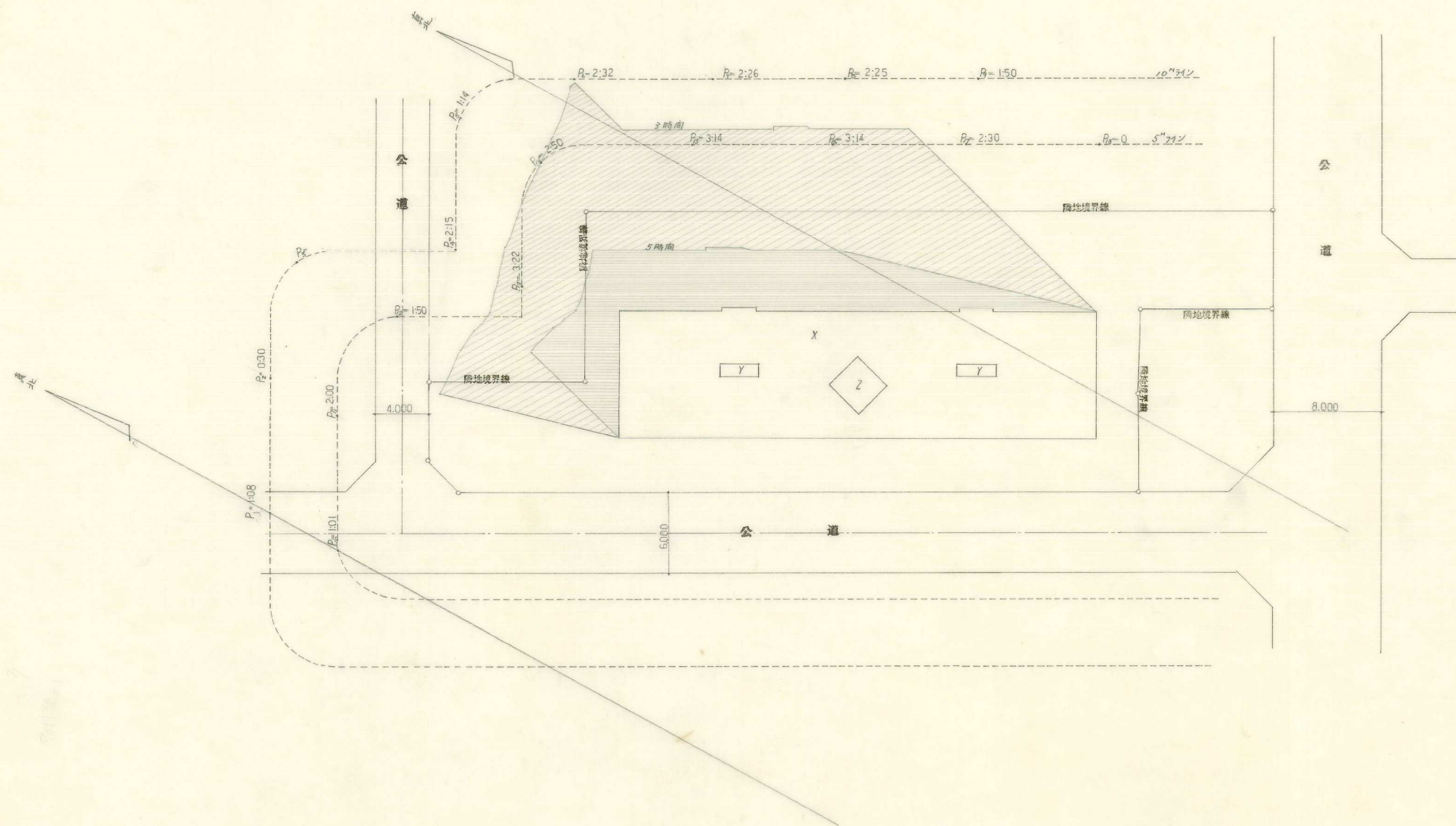
注 設計変更の際は建築士法第19条によること 記事	検図	製図	年 月 日 作製	設計番号	工事名称 55. 埼玉県警察教職員住宅新築工事設計図	図面名称 日 影 図	SCALE : :	図面番号 - 22
			年 月 日 訂正	年 月 日				

時	間	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	
角	度	53.22	48.13	42.41	36.41	30.10	23.10	15.14	7.57	0.00	7.57	15.44	23.10	30.10	36.41	42.41	48.13	53.20	
倍	率	7.22	4.47	3.28	2.63	2.23	1.97	1.81	1.72	1.69	1.72	1.81	1.97	2.23	2.63	3.28	4.47	7.22	
X	推定水平面mの値	10.920	78.84	48.81	35.81	28.71	24.35	21.51	19.76	18.78	18.45	18.78	19.76	21.51	24.35	28.71	35.81	48.81	78.84
Y	-	11.350	81.94	50.73	37.22	29.85	25.31	22.35	20.54	19.52	19.18	19.52	20.54	22.35	25.31	29.85	37.22	50.73	81.94
Z	-	16.550	119.49	73.97	54.28	43.52	36.90	32.60	29.95	28.46	27.96	28.46	29.95	32.60	36.90	43.52	54.28	73.97	119.49



- 1 日影時間算定器具：藤田商事日影定規 緯度 36°00'
- 2 冬至の太陽南中時の時間
計算式： $12^{\circ}41' - \frac{135^{\circ}}{15} \times 60 = 18^{\circ}44'$ 東京陽時 = $11:38:15 - 18^{\circ}44' = 11:29:31$ 秒
- 3 方位の測定法：トビウス測定 昭和45年7月15日 測量時間 11時47分06秒

日影図(等日影時間図)



注 設計変更の際は建築士法第19条によること
記事

検図

製図

年 月 日 作製
年 月 日 訂正
年 月 日

設計番号

工事名称

55. 埼玉県蔵教職員住宅新築工事設計図

図面名称

日影図(等日影時間線)

SCALE

:
:
:

図面番号

- 24

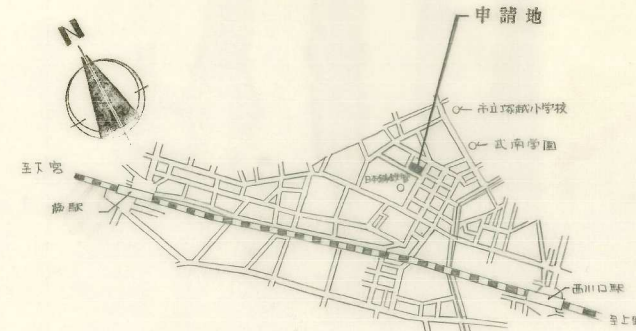
解体工事特記仕様書

工事内容

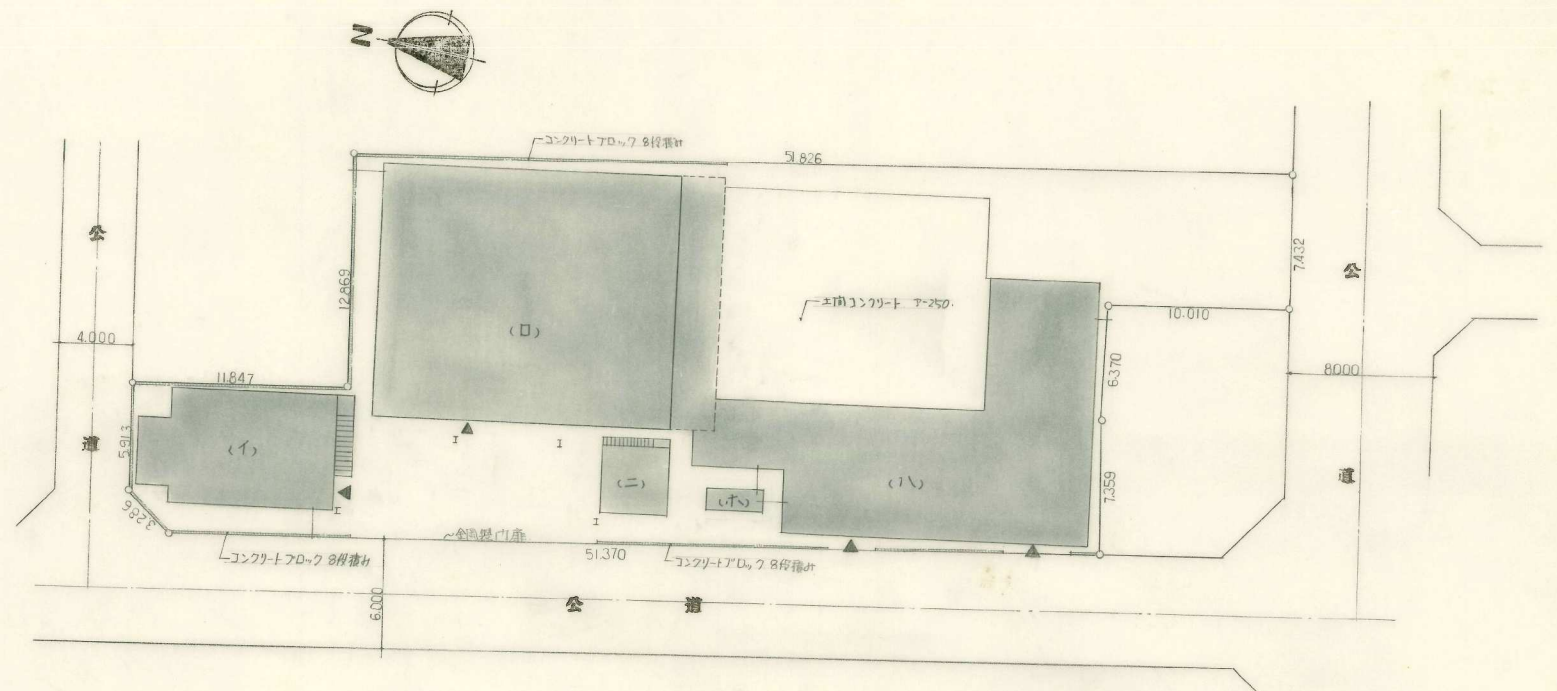
1. 駅前近2階建工場、プレハブ2階建事務所兼倉庫、木造平屋建工場、変電所及び関連設備配管、配線等、解体撤去工事一式

工事仕様

1. 工事中は、隣地（仮）、公道等に充分留意し、損害等及ぼした場合は請負者が責任をもって補償すること。
2. 工事中は、場内の清掃及び作業の安全を保つと共に、工事関係者以外を場内に立入らせないようにすること。
3. 建物の解体は、係員と打合せで行うものとし、養生材は全て場外搬出、自由処分とする。解体方法については予め施行計画書を作成し、係員の承認を得ること。
4. 養生材の内、鋼材については、くず鉄に換算し、請負業者が買取するものとする。
5. 基礎、配管等、地下埋設物は全て掘取撤去することを原則とするも、特別な障害物が発見された場合は直に係員に連絡し、指示を得ること。
6. 解体後の敷地は、巻地の上、解体工事完了後直に掃き清めるものとする。
7. 解体作業中の焚火は、最小限度とし、消火器等の設備を設け、その他の火気にも細心の注意を払うこと。
8. 工事着手前の建物室に周囲の状況及び工事中の解体工程をカラー写真撮影し、整理の上提出すること。



案内図



イ) 事務所、倉庫	115.93 [㎡]
ロ) 工場、設計室	482.76 [㎡]
ハ) 工場	183.11 [㎡]
ニ) 変電所	13.69 [㎡]
ホ) 物置	3.67 [㎡]
計	799.16 [㎡]

配置図 S=1:200

注 設計変更の際は建築士法第19条によること

記事

検図

製図

年 月 日 作製
年 月 日 訂正
年 月 日

設計番号

工事名称

55.埼玉県蔵教職員住宅新築工事設計図

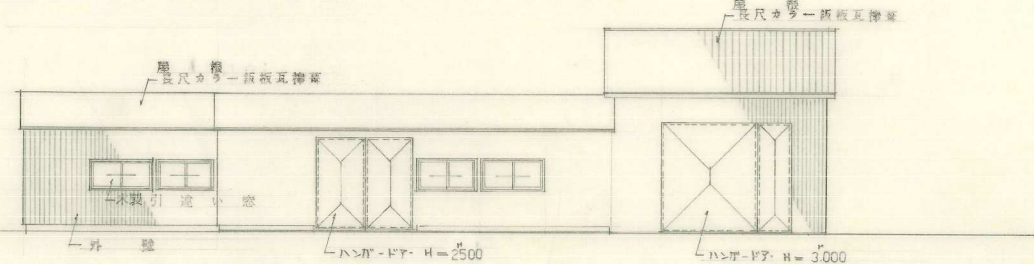
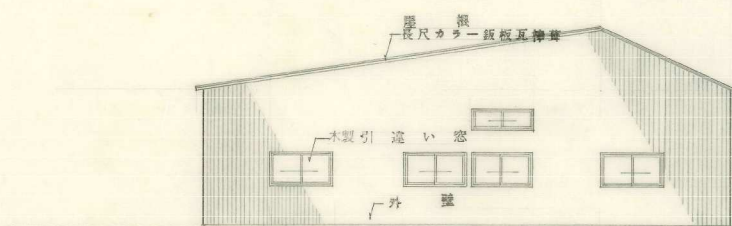
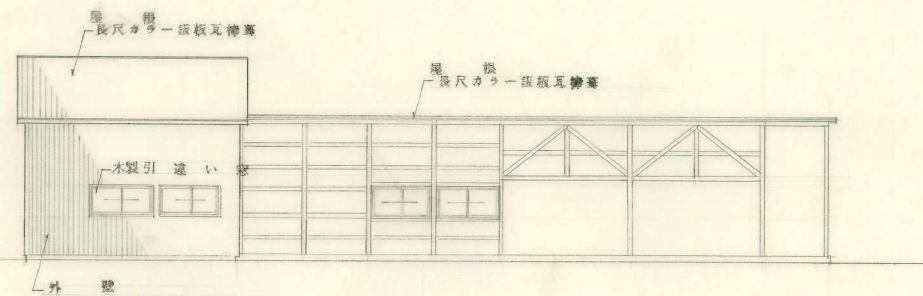
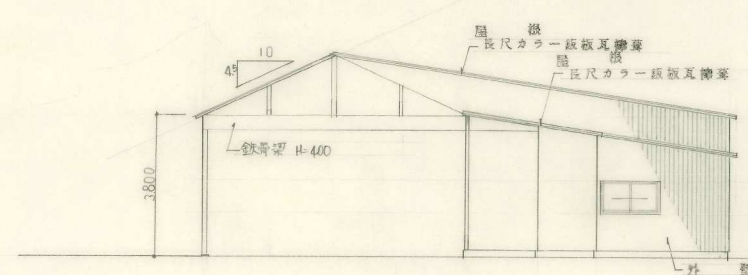
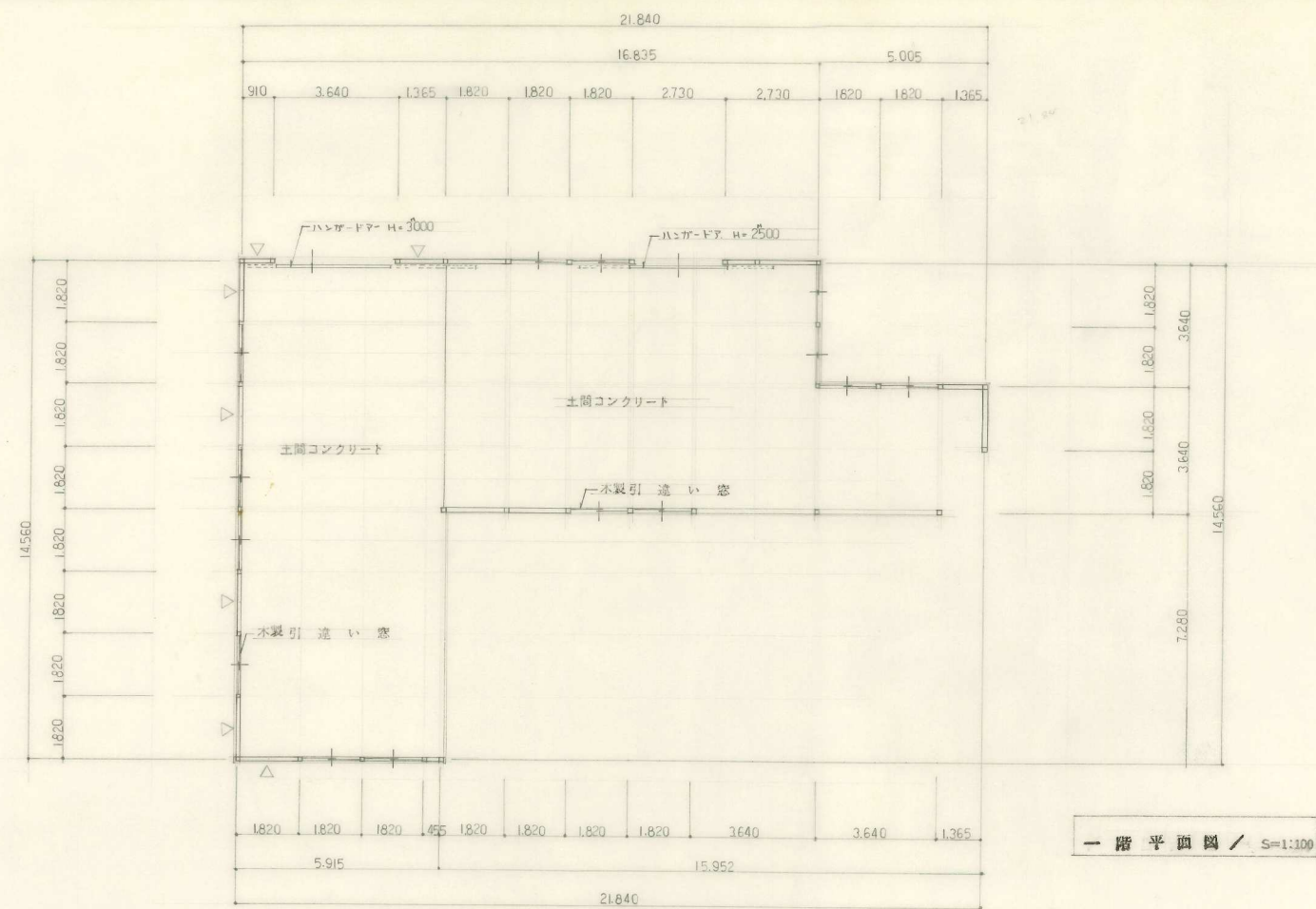
図面名称

既存建物
特記仕様書 配置図 案内図

SCALE
: S=1:200

図面番号

-25



注 設計変更の際は建築士法第19条によること
記事

検図

製図

年 月 日 作製
年 月 日 訂正
年 月 日 設計番号

工事名称

65.埼玉県警察職員住宅新築工事設計図

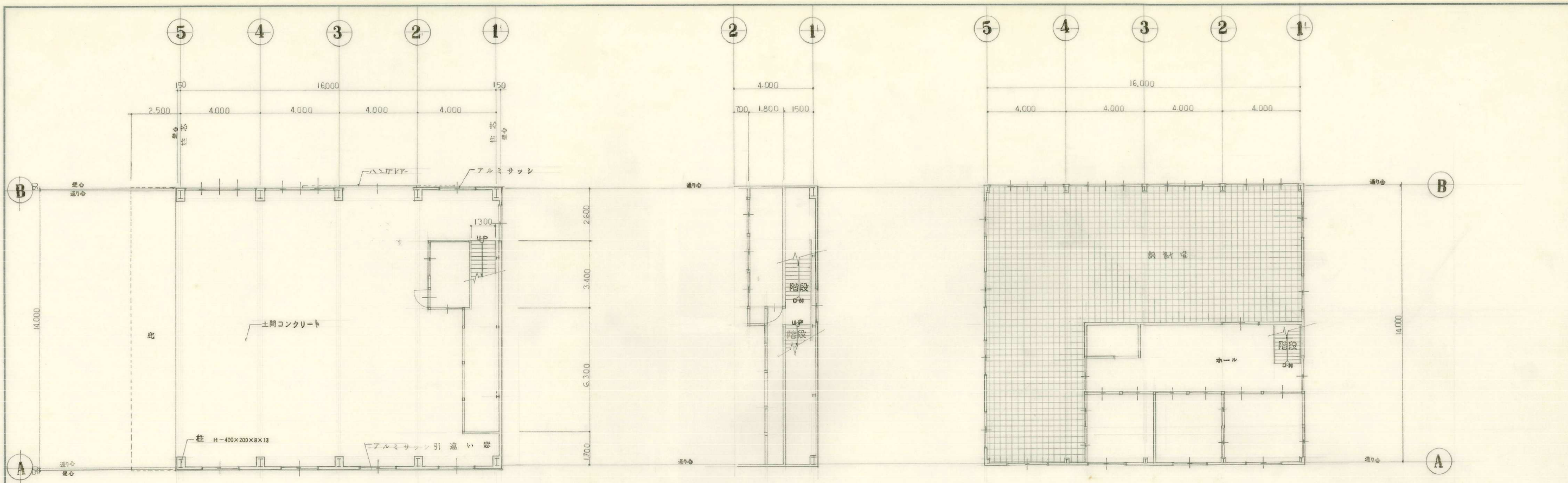
図面名称

設計図書
一階平面図 /

SCALE
: S=1:100
:

図面番号

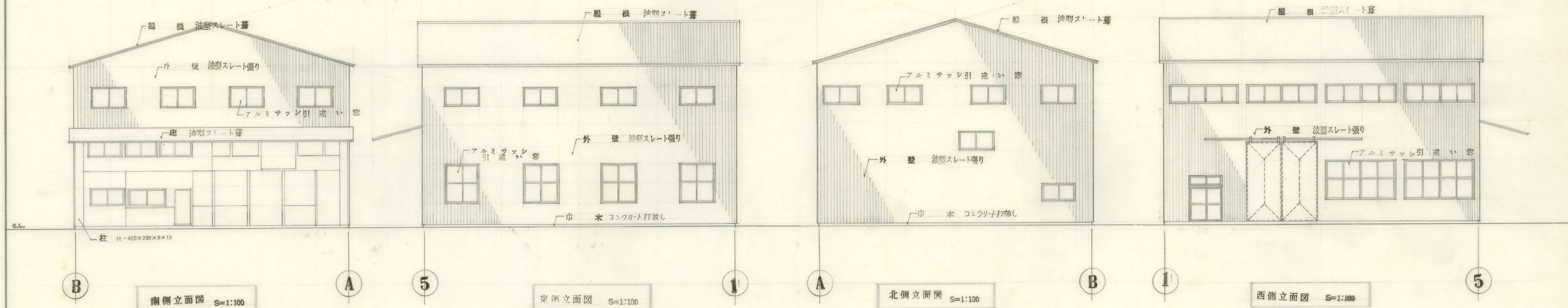
- 26



階平面図 S=1:100

階平面図 S=1:100

階平面図 S=1:100



南側立面図 S=1:100

東側立面図 S=1:100

北側立面図 S=1:100

西側立面図 S=1:100

注 設計変更の際は建築士法第19条によること

記事

検図

製図

年 月 日
年 月 日
年 月 日

日作製
日訂正
日

設計番号

工事名称

55.埼玉県教職員住宅新築工事設計図

図面名称

既存建物平面図/立面図

SCALE

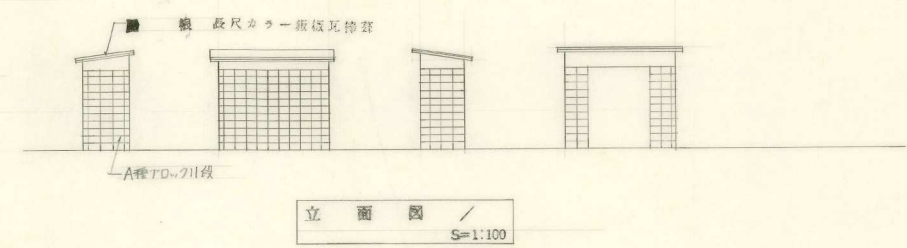
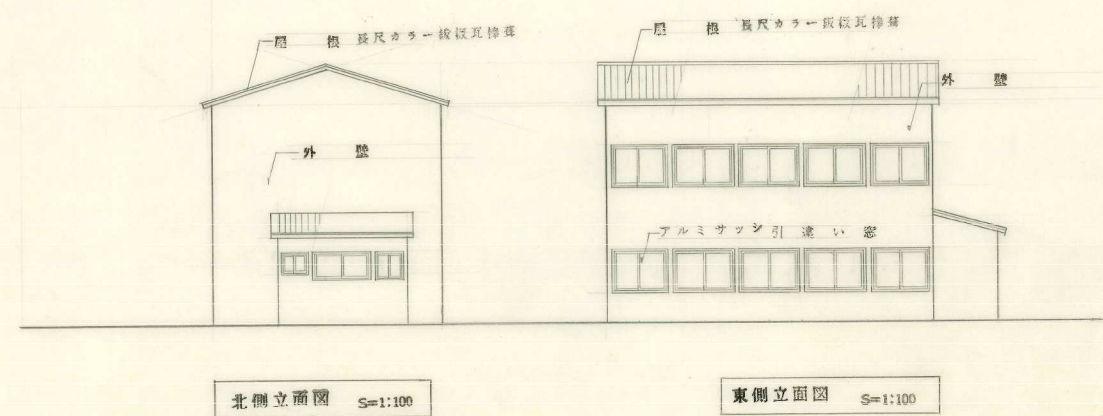
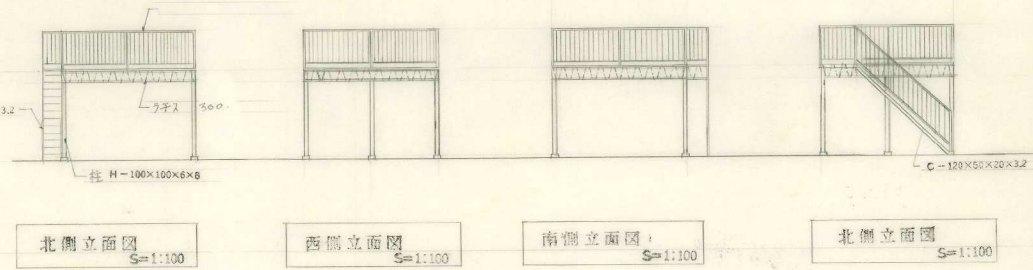
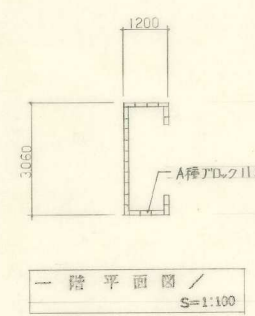
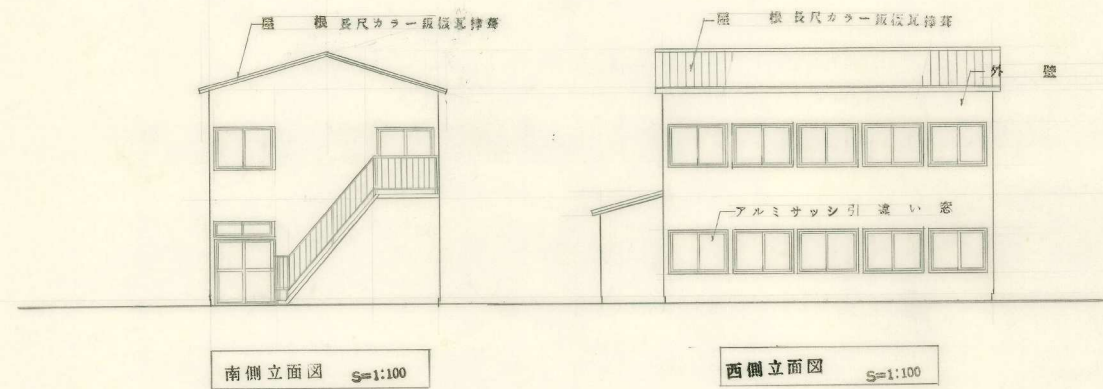
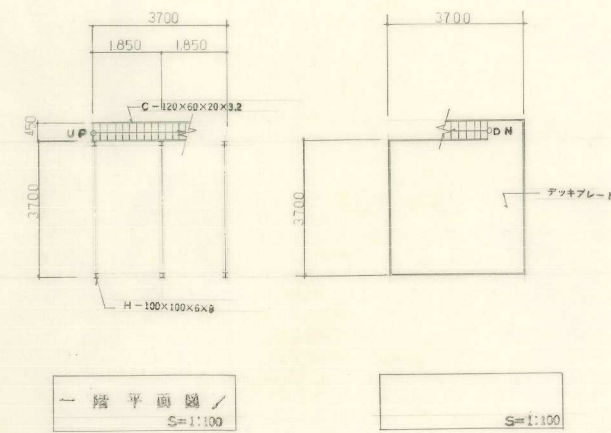
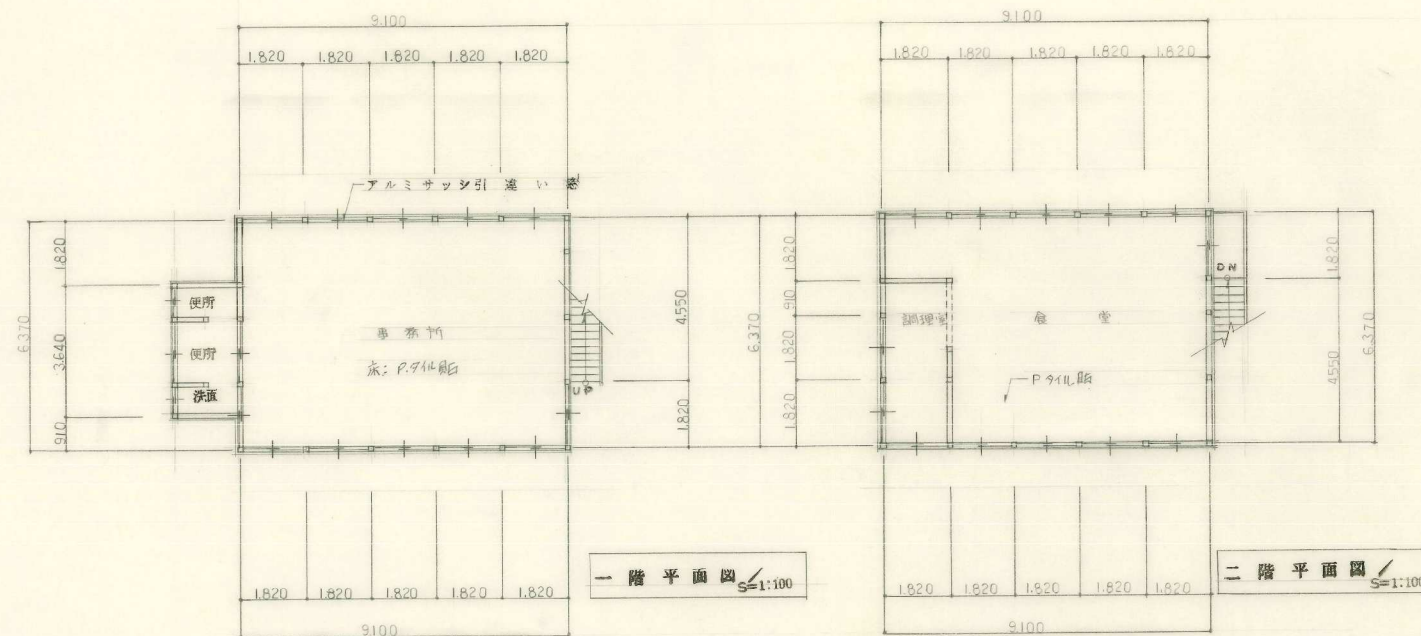
S=1:100

S=1:100

図面番号

- 27 -

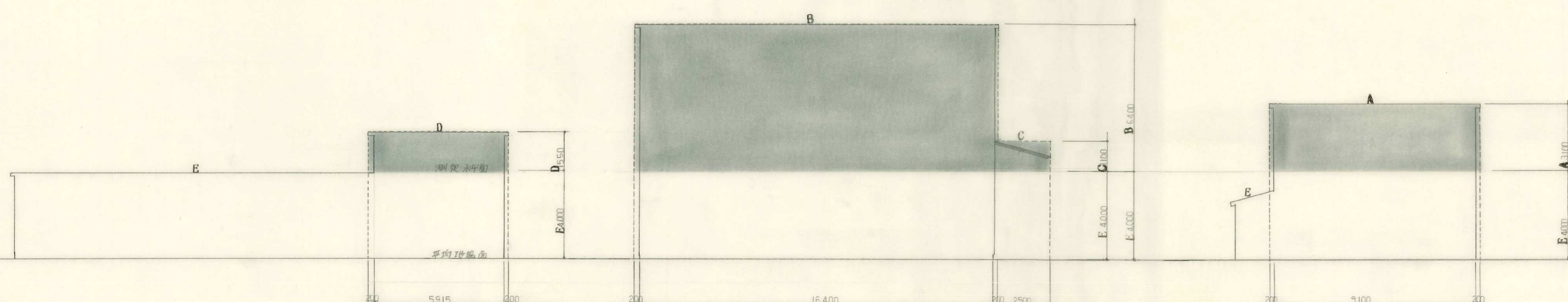
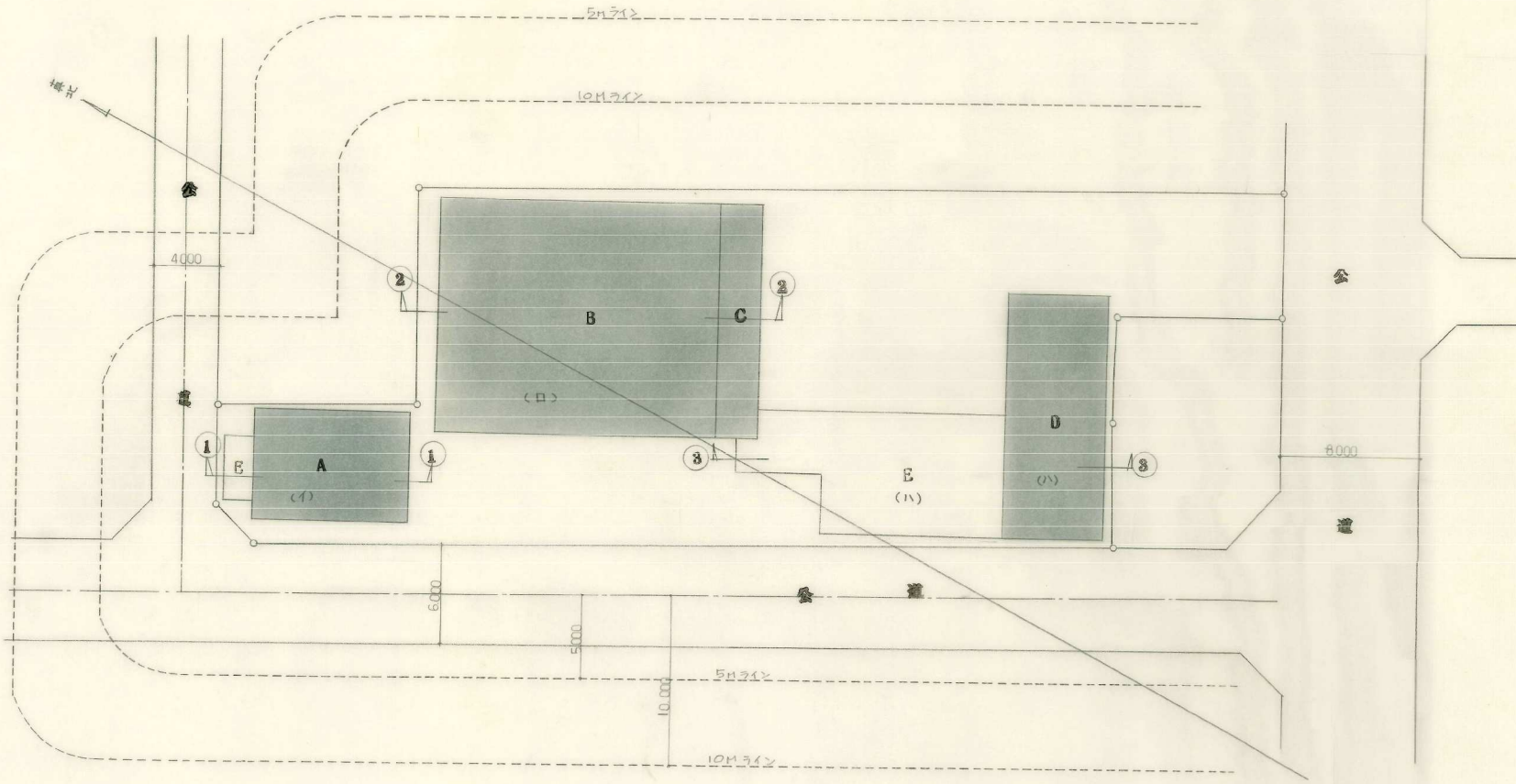
埼玉県建築士会川口支部



配電図 S=1:200

北緯	35°49'
東経	139°41'

- イ 事務所・食堂
- ロ 工場・設計室 休息室
- ハ 工場



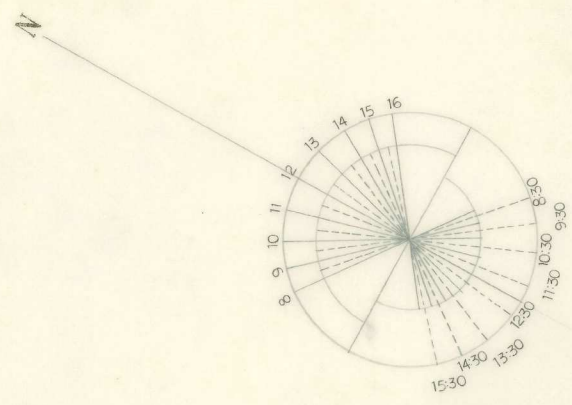
3断面 - 3断面 S=1:100

2断面 - 2断面 S=1:100

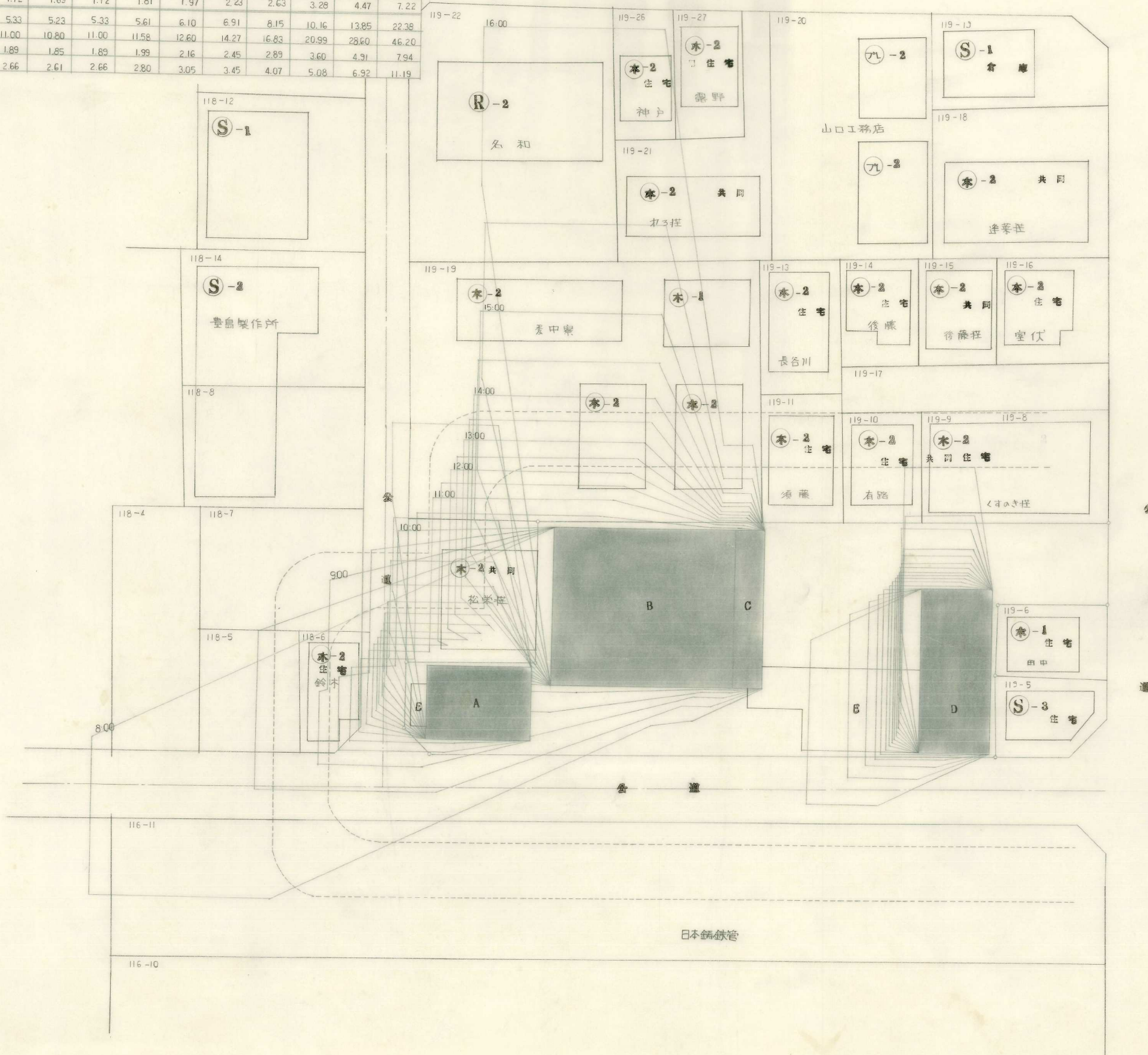
1断面 - 1断面 S=1:100

	注 設計変更の際は建築士法第19条によること 記事	検図 製図	年 月 日 作製 年 月 日 訂正 年 月 日	設計番号	工事名称 5. 埼玉県農林職員住宅新築工事設計図	図面名称 既存建物日影図配電図	SCALE S=1:200 S=1:100	図面番号 29

時	向	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
向	度	53.22	48.13	42.41	36.41	30.10	23.10	15.14	7.57	0.00	7.57	15.44	23.10	30.10	36.41	42.41	48.13	53.22
向	率	7.22	4.47	3.28	2.63	2.23	1.97	1.81	1.72	1.69	1.72	1.81	1.97	2.23	2.63	3.28	4.47	7.22
A	測計室(平)面(坪)の面積	31.00	22.38	13.85	10.16	8.15	6.91	6.10	5.61	5.33	5.33	5.61	6.10	6.91	8.15	10.16	13.85	22.38
B	"	64.00	46.20	28.60	20.99	16.83	14.27	12.60	11.58	11.00	10.80	11.00	11.58	12.60	14.27	16.83	20.99	28.60
C	"	1.100	7.94	4.91	3.60	2.89	2.45	2.16	1.99	1.89	1.85	1.89	2.16	2.45	2.89	3.60	4.91	7.94
D	"	1.550	11.19	6.92	5.08	4.07	3.45	3.05	2.80	2.66	2.61	2.66	3.05	3.45	4.07	5.08	6.92	11.19



凡 例	
本 — 1	木造平家
本 — 2	木造二階建
アレ —	アレハフ
R —	鉄筋コンクリート造
S —	鉄骨造



此の表の値はコンクリートおよび基礎に使用する一級ランダム鋼筋に適用する。

1. 普通コンクリート $F_c=180 \text{ kg/cm}^2$ $F_t=270 \text{ kg/cm}^2$ 以下

2. 軽量コンクリート $F_c=180 \text{ kg/cm}^2$ $F_t=240 \text{ kg/cm}^2$ 以下 1. の値 $\times 2$

3. 鉄筋 $S R 24 (S R 24^1, S D 30, S 35, S D 40 (S D 40^1 \text{ の場合 } F_c = 210 \text{ kg/cm}^2 \text{ 以下に適用する}))$

コンクリートの強度の規格・規定に準じては JIS 6 3112 (普通コンクリート) 及び JIS 6 3113 (軽量コンクリート) 及び JIS 6 3117 (鉄筋コンクリート用生鋼筋) に規定するものを採用する。(ただし、S R 24 は S R 24¹ である)

注：設計者の注意がある場合は、その示すに従うものとする。

4. kg/cm^2 $\rightarrow \text{MPa}$ と変換する

○2-1. 折り曲げ基準および余長

2-1-1 継		
折り曲げ応用	左側部	右側部
鉄筋の使用箇所による		
鉄筋の使用箇所による		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		
鋼板の厚さによる		

(註1) ()内はSR24使用の場合
(註2) SD-HQ使用の場合、折り紙けうちのり寸法および糸長は上に1dを加えるものとす。
(註3) dは巻紙の公称直径とする、以下全て同様とする。

- 1 凡鋼の棒
- 2 めげろ板より可成の厚板
- 3 板および棒より基礎部を除く、露出部分の象形
- 4 露出部分の高さの象形の太さ
- 5 露出の線分
- 6 露出部の斜示した表示

鉄筋の端部寸法は2-3-1 級以上とする。また、端部位置はスラブ、コリ、柱等の
位置の位置による。ただし、鉄筋径が25.4mm をこえる鉄筋には直ぐ端部を用いない。
2-3-1 級

	フッ素樹脂塗膜 (1g/cm ²)	180	210
底に鉛筆で 図1, 12 を		45φ	40φ
		35φ (45φ)	30φ (35φ)
加工注意	加工0.05mm φ 0.5mm以上 400mm以上	圧縮空気吹付 3mm	

(注 3) (1)内はSR24使用の場合

校舎の定員数は2・4・1歳以上とする。また、定員数とし、1歳以下の幼児はスラブ、7、柱等の各箇の規定による。

[illegible]

註1. 制圧版、釘木版および基礎小ばりについては小ばり、スラブの下葉筋の端は用しない。

溶接金鋼の直む組手。正結晶では横打筋間に50mmを加えた長さ以上、かつ150mm以上とする。但し、溶接金鋼はJISG 3551(溶接金鋼)に規定するものを使用する。

2-5-1 2

[illegible]

Figure 1 illustrates the design of a spiral staircase, showing various views and dimensions. The diagrams are labeled 2-6-1 through 2-6-8. The views include plan views (2-6-1, 2-6-2) and section views (2-6-3 through 2-6-8). Key dimensions and angles are indicated, such as 135°, 44.2, 1.5, 90°, 120°, 130°, 135°, 140°, 150°, 160°, 170°, 180°, 190°, 200°, 210°, 220°, 230°, 240°, 250°, 260°, 270°, 280°, 290°, 300°, 310°, 320°, 330°, 340°, 350°, 360°.

主筋の互いの間隔は端部最大寸法125mm以上、また凡間では全長法の1.5倍とし、隅部筋節は1.7倍以上とする。

断面は一般に角ばりでは500mm以上、
 角ばりは角ばりでは750mm以上のものを入れる。

2-7-1 図

構造部分の種類			およその厚(mm)
上に通さない部	床	壁	50
	壁の開口部	窓枠	30
	壁の開口部	扉	40
	壁の開口部	扉	50
上に通す部	壁の開口部	窓枠	40
	壁の開口部	扉	60

(註1) 断面に異形鉄筋を用いる場合、表積(3-1)表は満足し、かつ主筋に対するおひき厚は主筋の公称直径の15倍とする。

(註2) 床面内側の場合は、コンクリートと土間に10mm打置す。

(註3) 床面に面する柱、はり、耐力壁は土おひきの場合には外側に10mm打置す。

[illegible][illegible]

1 柱主筋の一端は、柱の1/6断面内にとり、(6-2-1図、6-2-2図)
2 梁筋のかね筋の上下は主筋の半高にとり、(6-2-1図、6-2-2図)

6-2-1図 6-2-2図

一般の断面
必要筋は9本

時、柱上部の束付方法を考慮する断面
必要筋は7本

必要筋はc1~50d程度

6-3-1 図

7-1 屈中心位置及び振れ

Figure 7-1 is a schematic diagram of a beam with length L . It shows the deflection center and deflection at different points. The deflection center is marked at $L/4$, $L/2$, and $3L/4$. The deflection is denoted by δ and the deflection angle by θ . The diagram illustrates the relationship between the deflection center and the deflection of the beam.

全長 1.50m
 上面 1.50m
 高さ 1.25m
 2.0m (2.5m)

バック
 400mm
 4.0m

7-3-1 図

7-3-2 図

構造部	2-D10	2-D10	2-D3	4-D25 2-D6
形式				
上り下筋	1-D16 2-D10 1-D22 1-D25	2-D16 2-D10	2-D22 2-D25 4-D16 2-D10	4-D22 4-D25
	2-D10	2-D10	2-D10	4-D15

7-4-1 図

(1) 横道線のある場合

はち

(2) 歩道入口、歩道のある場合

はち

7-4-2 図

(1) 横道線のある場合

はち

(2) 歩道入口、歩道のある場合

はち

[illegible]

8-3 片持り及び先端におさまる小ばり

(ばりは片持ちとして考慮し、よめる。場合)

図 8-3 片持り

○9-1 継手・足着

鉄筋位置

鉄筋径

9-1-1 図

l_1 = 指定方向内より寸法

9-2-3 図

Figure 1: Design of the main structure. The figure consists of two cross-sectional diagrams, (a) and (b), showing the structural details of a bridge or overpass. Diagram (a) shows a cross-section with a central pier and two side piers, with dimensions 244, 244, and 244 indicated. Diagram (b) shows a cross-section with a central pier and two side piers, with dimensions 244, 244, and 244 indicated. The diagrams are labeled with '9-3-1 至' and '9-3-2 至'.

9-3 スラブ筋のおさまり

① 鉄筋の両端を2本のスラブ筋の
はりの上にて固定し通す。

② 鉄筋の両端に行く場合。

9-3-1図 9-3-2図 9-3-3図

9-4 スラブ筋のおさまり

① 鉄筋の両端を2本のスラブ筋の
はりの上にて固定し通す。

② 鉄筋の両端に行く場合。

9-4-1図 9-4-2図 9-4-3図

9-4-4図 9-4-5図 9-4-6図

9-4-7図

10-1 耐力壁

1 配筋および耐力壁の断面は設計図による。

2 定着高さは、標準高さとし、とする。

3 はりおよび配筋の断面の大きさは10-1-1、2、10-1-4、5による。

10-2 地下外壁

1 配筋の仕組図による。
2 はりおよび柱の断面は10-2-1図、10-2-3図による。

10-2-1 図 10-2-2 図 10-2-3 図

3 地下外壁の定礎は、柱間隔としとする。

4 地下外壁脚は柱はりの外壁より $\phi 30$ mm 突出して設置する。

10-3 一般梁の定礎、柱、はり、と壁筋とのおきまり

10-3-1a 10-3-2a 10-3-3a 10-3-4a 10-3-5a

[illegible]

- 1 配管は設計図による。
- 2 貫通孔は浮判としてはりせいの4以下はりせいの中央部分にあける。また開孔は直径の4倍以下とする。

[illegible]

§13 図面上の鉄筋表示

異形断面でフックの付く棒筋の表示

例題

断面番号	10 (9)	13	16	19	22	25	29 (28)	32	ϕ mm
鉄筋表示	A	X	o	e					

アースドリル 工法による 場所打コンクリートぐい 地業工事仕様書

(I) 共通事項

本工事は 本設計図によるほか 下記共通仕様による。

① 建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）

(II) 特記仕様

2-1 一般事項

① ぐい工事着工 10 日以前に 施工計画書 および 工程表を 監督員に提出する。

② ぐい長、ぐい径、ぐい本数 および 設計支持力は 別表「ぐいリスト」による。

③ ぐいの形状、配筋等は 別図「設計図」による。

④ 載荷試験結果および 支持地盤等の状況により、ぐい長、ぐい径、ぐい本数を変更することがある。

⑤ 杭施工業者は 特別共通仕様書による。

2-2 材料

① コンクリートは「レタミクストコンクリート」とし 下表に依る 下表以外は「工事共通仕様書 建築編」の 7 章に依る。

設計基準強度 (N/mm ²)	水セメント比 (W/C)	スランパ	粗骨材の最大径 (mm)	単位セメント量 (kg/m ³)	備考
210	50 以下	15 ～ 18	25 以下	370	

② コンクリートの 圧縮強度 試験は 工事共通仕様書 7.1.2 に依るものとし 試験回数は コンクリート 100mm² 毎はその端数毎に 1 回とする。

③ 鉄筋

主筋 Hoop は 異形棒鋼 JIS G 3113 熱間圧延異形棒鋼 2 種 (SD 30) VIS マーク表示品とする。

④ 鉄筋加工組立て

① 主筋継ぎは重ね継ぎとし、ラップ長さは 主筋径の 45 倍以上とし 片面より 10d 以上 溶接一層施す。主筋下部はフック付とする。

② 鉄筋の組立は 全てアーク溶接とする。

③ 補強リング筋は D16 とし 主筋との交差部は 全て溶接とする。重ね継ぎは 10d 以上とし 溶接一層施すとする。

④ フーゴ筋は 主筋一本毎に 4 箇所以上 溶接する。重ね継ぎは 10d 以上とし 溶接一層施すとする。

⑤ スペーサーは 補強リング筋 1 本所当り 4 箇所とし 上下 4 箇所に取り付け 主筋に溶接する。

スペーサーは D19 とし 所定のかぶり厚が確保できるものとする。

⑥ 主筋のかぶり厚は 100mm とする。

2-3 施工

① 準備

① ぐい位置の地盤 附近。障害物は あらかじめ 取除く。特に 重大な障害物 等 発見された時は 監督員に 報告して、その 指示を受ける。

② 基準点、ぐい頭の 高さを 容易に 測定出来るよう 基準点を 設置する。

③ 押ぐい 建物位置決定後、ぐい中心位置を定め 押ぐいを行なう。

④ 引照点 施工中、ぐいの 移動があっても 容易に ぐい中心位置を 決定出来るよう 通照引照点を 設ける。引照点は

変位しないよう 堅固に 設置し 監督員の 承認があるまで 除去してはならない。

② 掘削

① 掘削 深度は 支持地盤 から 1m 以上とする。

② 残土は 掘外処分とする。

③ ぐい 築造

① コンクリート 打設前には 必ず スランパ試験を行い 所定の スランパが 得られるようにする。

② 所定の 深さまで 掘削完了後 入念に 孔底を さいを行なう。

③ 鉄筋の 挿入は 孔底に 垂直に行い、その 形状を 損傷しないよう 注意する。

④ コンクリートは トレミー 管を使用して 打込む。トレミー 管は 底付式、ブランジャー式 の いずれかとし 接合部には 漏水のないよう 構造とする。ただし 水深 10m 以上の場合は ブランジャー式を 原則とする。

⑤ コンクリートの 打込中、トレミー 管の下端は コンクリート中に 深さ 2m 以上 入っている状態を 保持する。

⑥ コンクリートの 打設は 中断せず 最後まで 連続して行なう。

⑦ コンクリートの 余長は 50cm 以上とし 根切時 所定の高さに 切りそろえる。

⑧ コンクリート 打設後、トレミー 管の洗浄を 必ず 実施すること。

⑨ 鉄筋は コンクリート 打設に伴い 浮力を受けて 浮き上がる事のないよう 必要な 措置を取る。

④ 施工精度

① 施工精度は 施工後 速やかに 測定する。許容範囲は 杭頭の 高さ 60mm 以内、傾斜度は 1/200 以内とする。

これを 満たす場合は 監督員 において 処理方法を 指示する。なおこの 処理に必要な 費用は 全て 工事請負業者の 負担とする。

2-4 その他

① 杭施工業者は この 杭に関する 十分な知識 経験のある 責任技術者を 定め、監督員に 氏名、生年月日、経験その他を 明記し 提出する。責任技術者は 施工中 現場に 常駐すること。

② 施工結果報告書を 監督員に 提出する。

杭 リスト

杭 径 ^(mm)	杭耐力 ^(t)	杭 長 ^(m)	掘削長 ^(m)	杭本数 ^(本)	備考
φ800	125	30	30	19	

注 設計変更の際は 建築士法第 19 条によること
 記事

検図

製図

年

月

日

年

月

日

日作製

日訂正

設計番号

工事名称

55.埼玉県農業教職員住宅新築工事設計図

図面名称

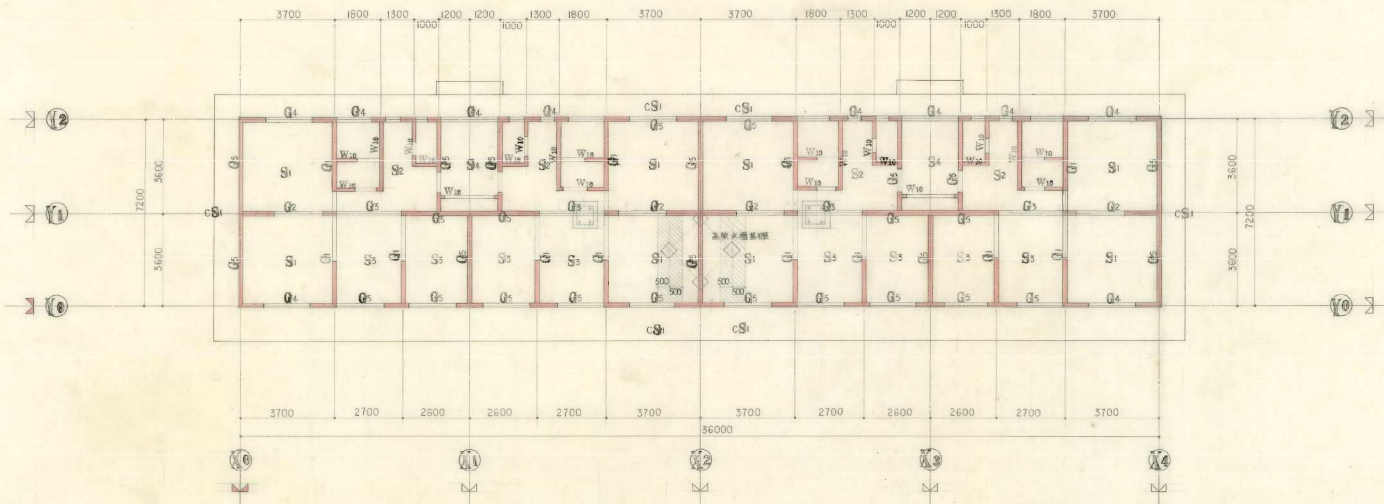
地業仕様書

SCALE

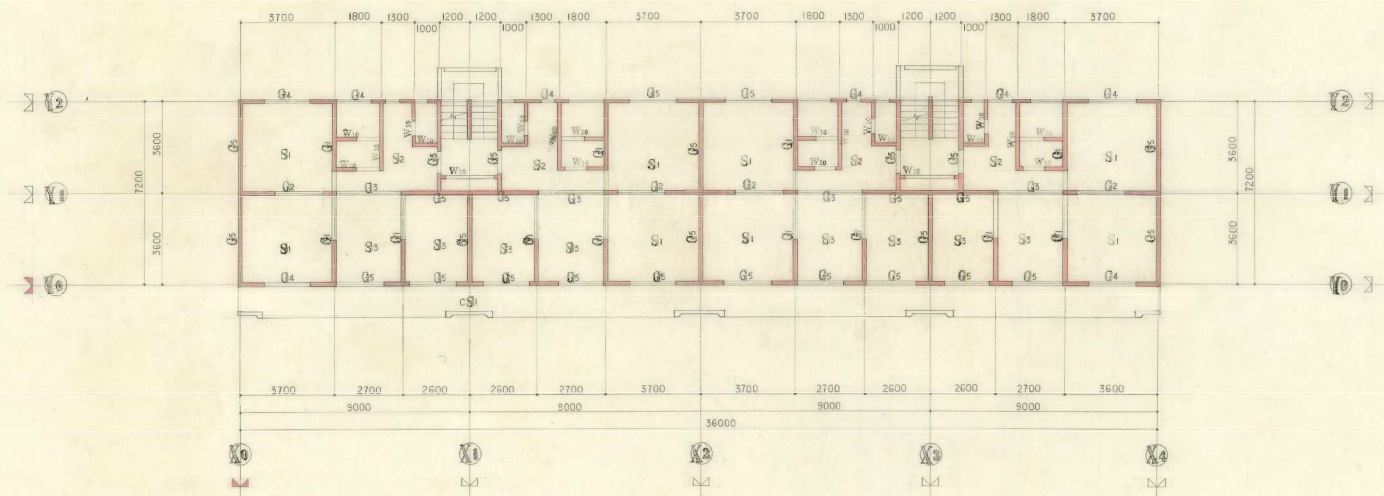
図面番号

C - 2

埼玉県土木会館



5 階 R 階床平図 1/100 (高床止揚床)



4~5 階 R 階床平図 1/100

注 設計変更の際は建築士法第10条によること

記事

縮図

原図

55年9月 日作製
年 月 日訂正
年 月 日

設計番号

工事名称

5.埼玉県蔵前職員住宅新築工事設計図

図面名称

5~1 階 R~2 階床平図

SCALE

1:100

図面番号

C-3

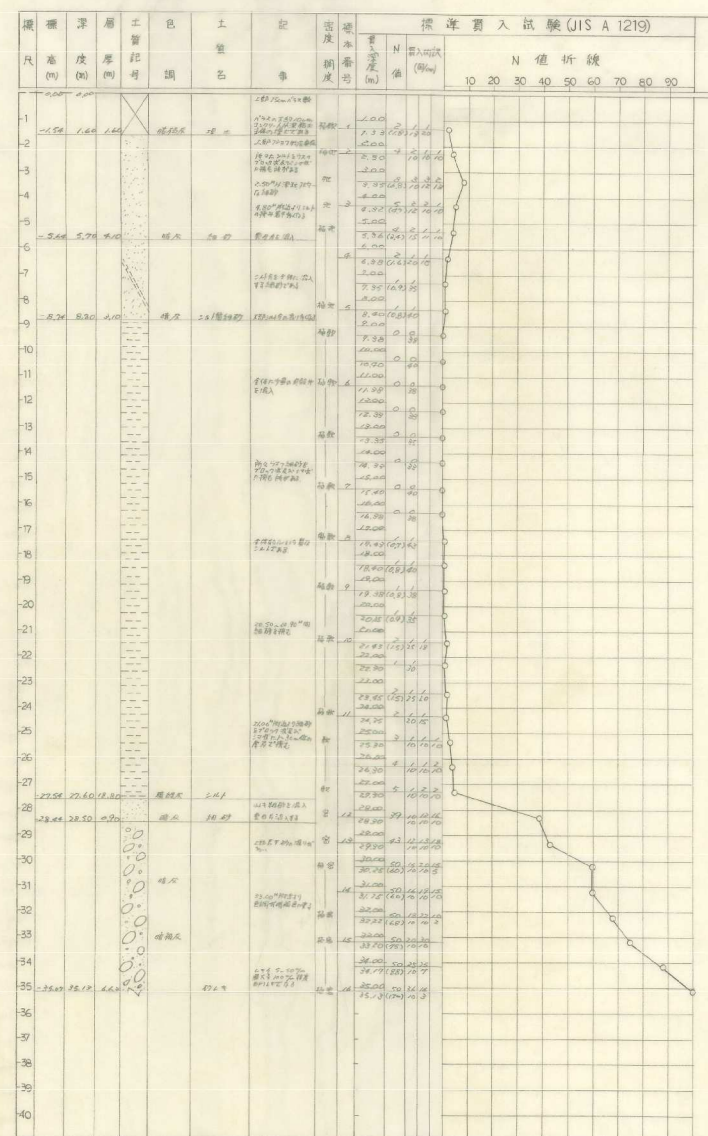
埼玉建築士会川口支部

大築リスト 1/30
 特別なものを下線にする
 ST&P D10-□-φ250 原 2-D10
 巾止部 D10-□-φ1000

	G1	G2	G3	G4	G5
	全 部	全 部	全 部	全 部	全 部
R					
上 部	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13
下 部	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13
ST&P	D10-□-φ250	D10-□-φ250	D10-□-φ250	D10-□-φ250	D10-□-φ250
原 部	1-D10	1-D10	1-D10	1-D10	1-D10
巾止部					
5					
上 部	3-D16	2-D16	3-D19	2-D16	2-D13
下 部	3-D16	2-D16	3-D19	2-D16	2-D13
ST&P					
原 部					
巾止部					
4					
上 部	3-D19	3-D16	4-D19	3-D19	2-D16
下 部	3-D19	3-D16	4-D19	3-D19	2-D16
ST&P	D10-□-φ200				
原 部					
巾止部					
3					
上 部	3-D19	3-D19	4-D22	3-D19	2-D16
下 部	3-D19	3-D19	4-D22	3-D19	2-D16
ST&P	D10-□-φ150	D10-□-φ200		D10-□-φ200	
原 部					
巾止部					
2					
上 部	4-D22	3-D22	4-D25	3-D22	2-D19
下 部	4-D22	3-D22	4-D25	3-D22	2-D19
ST&P	D13-□-φ150	D13-□-φ150	D13-□-φ200	D13-□-φ150	
原 部					
巾止部					

土 質 柱 状 図

調査所名 埼玉県建設部建設技術センター
 調査場所 埼玉県建設部建設技術センター
 調査期日 昭和 55 年 2 月 1 日～2 月 4 日
 ボーリング工法 ロータリ式 孔深 44.7m
 柱内径 44-165mm 調査者 AM・GOKI 等



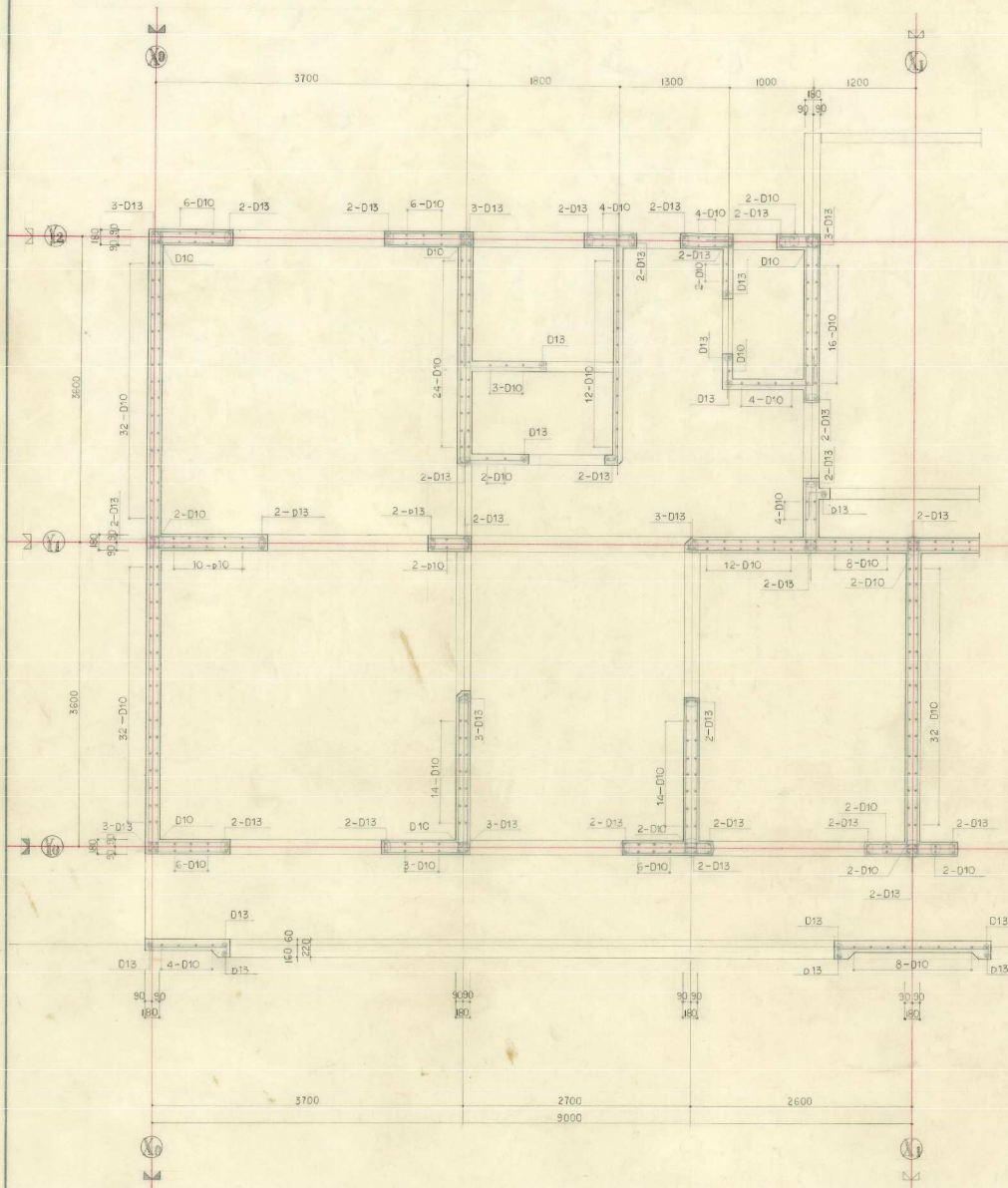
注: 設計変更の際は建築士法第1条によること

縮図 製図 55 年 9 月 日 作製 設計番号

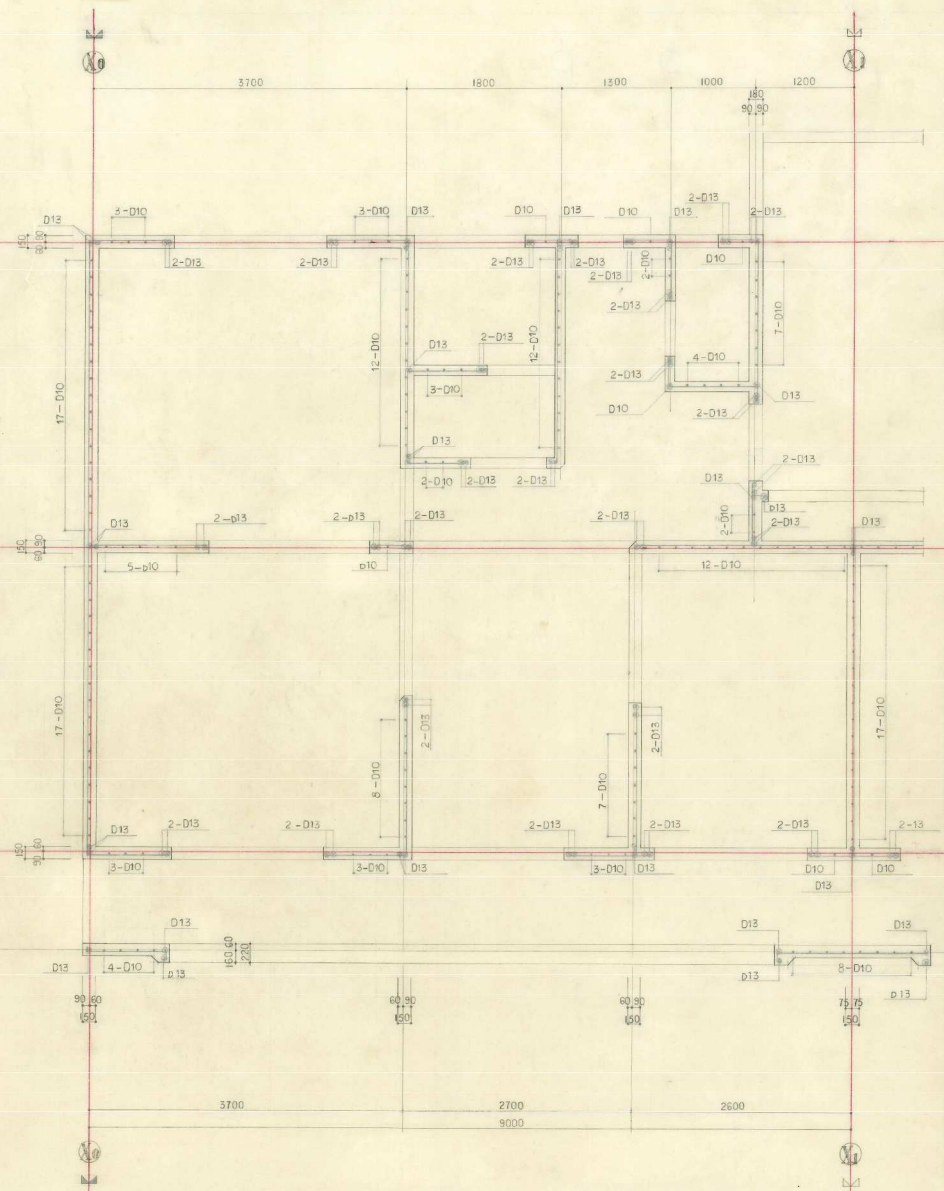
工事名称 埼玉県建設職員住宅新築工事設計図

図面名称 大築リスト 土質柱状図

SCALE 1:30 図面番号 C-5



4 階壁 5 階床梁伏図 1/30



5 階壁 R 階床梁伏図 1/30

注 設計変更の原状回復は設計者によること

記号

棟目

製図

年

月

日

訂正

設計番号

工事名称

埼玉県県教職員住宅新築工事設計図

図面名称

4 5 階柱 5 R 階床梁伏図

SCALE

1 : 30

図面番号

C - 7